

子育てに関する 行政制度及び NPO 法人サービスについて

第18回 「地方の取り組みⅧ」



スマホアプリによる切れ目ない情報提供で子育て支援

- 千葉県 -

地域少子化対策強化事業

スマートフォンアプリ「ちば My Style Diary」

近年のスマートフォンの普及を受け、スマホアプリによる情報発信に取り組む自治体が増加しています。その多くは基礎自治体単位で個別に提供していますが、広域自治体が主体となっているところも存在します。

千葉県では平成 26 年度に、女性の結婚から妊娠、出産、子育てまでの切れ目のない情報提供を行うため、スマホアプリ「Chiba Woman Diary」実験的な配信を県内の一部自治体において行いました。27 年には実証実験の結果寄せられた要望を取り入れ、対象を女性に限らず男性にも拡大し、県内全域での正式サービスを開始しました。

主な機能として、各種イベント情報や予防接種案内の配信、専門家への相談窓口、子供の成長記録、カレンダーなどがあり、結婚期から育児期までの一貫したプラットフォームとして開発されています。28 年度も、サービスの継続とアプリの改良を予定しています。

■ちば My Style Diary <http://mystyle-diary.jp/apps/>

サービスの内容

①支援サービスの情報配信

県や市町村から、婚活イベントやお子さんの予防接種の案内など、役立つ情報の配信します。

②医療の専門家に相談

健康に関する相談窓口をご用意。看護師・栄養士などの専門家が対応。夜間や休日に開業中の病院を探すことも可能です。

③パパもつかえる!イクメン応援メニュー

「パパ育成クエスト」では、育児の心構えなどをクイズや読み物を使ったゲーム形式で解説。その他、育児コラムや育児 Q&A などでイクメンライフをサポートいたします。

④カレンダー機能をはじめ、便利な機能が満載!

生理周期などの女性の体調や、子供の健診スケジュールなどをカレンダーで一括表示! 日々の予定と合わせ、管理することが可能です。

この他、「妊娠・出産・育児シミュレーション」や「子供の成長記録」など様々な機能を搭載。



市民の力とテクノロジーの出会いによる新しい支援

- Code for Kanazawa+みらい子育てネット輪島

のとノットアローン

2016 年 4 月、石川県奥能登と呼ばれる石川県輪島市、珠洲市、能登町、穴水町一帯、この奥能登地方で子育てをする親たちを応援するためのウェブアプリケーション、『のとノットアローン』の正式運用が開始されました。パソコンやスマートフォンから閲覧できる、イベントカレンダー、目的別の絞り込みができる子育てマップ、育児経験のある開発者が推奨する相談先の情報を提供しています。のとノットアローンは、奥能登で実際に子育てを経験した(あるいはしている)親たちが、民間のエンジニアの力を借りて開発した「シビックテック」プロジェクトです。

シビックテック(Civic Tech)とは、「テクノロジーのちからを得た「市民の手」で、社会・地域を改善していく取り組み」(CIVIC TECH FORUM 2016 より)のことです。地域社会が直面する課題の中には、テクノロジーのちからによって解決に近づけるものも存在するはずであり、それらの解決のために全国各地にシビックテックコミュニティが設立されています。のとノットアローンの開発に当たった『Code for Kanazawa』も、石川県で結成されたシビックテックコミュニティです。その彼らが出会ったのが、奥能登で子育てをする親たちの孤立を防ぐための情報を発信したい、『みらい子育てネット輪島』の有志でした。この二者が協同し、またオープンデータ推進を受けて自治体が公開する情報を活用することによって、のとノットアローンが実現することとなりました。



2016年7月						
日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
A ため池で	+4件	+3件	+6件	+3件	+3件	
10	11	12	13	14	15	16
+5件	+2件	A ママのよ	+2件	A 7月まつり	A 輪島市	+5件
17	18	19	20	21	22	23
		+3件	+5件	+4件	A 輪島市	

地域ごとに色分けして表示しているイベント情報

協力団体

みらい子育てネット輪島・特定非営利活動法人こらぼる・輪島市生涯学習課・公益財団法人いしかわ子育て支援財団・のとフェアリー・能登町健康福祉課・珠洲市福祉課・石川県奥能登総合事務所・輪島市社会福祉協議会・穴水町健康推進課・穴水町社会福祉協議会

Code for Kanazawa

<http://www.codeforkanazawa.org/>

のとノットアローン <http://noto.not-alone.jp/>

みらい子育てネット輪島 <https://www.facebook.com/>



Support for **Woman Doctors** ～私からあなたへ～

赤坂(旧姓 熊谷)真奈美 先生【岩手県 16 期】

岩手医科大学 小児科 特任講師(小児神経)
整形外科の夫(自治医大の同級生、単身赴任)
長男高校2年、次男中学2年



「自治医大と私の出会い」

5年前の東日本大震災では全国の皆様、自治医大の方々から温かい支援をいただきました。この場をお借りして心から感謝を申し上げます。熊本の皆様も大変な日常とお察ししますが、必ずや共に復興しましょう。

岩手県のへき地代表、旧川井村で私は生まれ育ちました。貧乏な母子家庭の三女で、地元で高校はなく、しかし勉強だけは好きだった私に、中学の先生が“盛岡の高校へ行って、お金のかからない自治医大に入り医者になりなさい”と高校進学の特等奨学金を3種類も整えて下さいました。また亡くなった父の担当医は自治医大出身の方でした。

金銭的に絶対浪人できない私のために高校の先生は他大学の医学部推薦や地域奨学生制度を進めて下さいました。しかし中学生の頃から自治医大のみを目標にしてきたので、誰にも相談せずすべて断りました。幸運にも合格できた自治医大は期待通り、すばらしい教育と意識の高い仲間達ばかりでした。また高校時代は切り詰めた一人自炊生活をしていて私にとって、大学の寮は、お風呂が準備され、食堂があり、勉強に専念できるありがたい環境でした。No76 医燈会会報に、群馬 39 期の先生が、ネッターうどん会と題し、寮に食堂がなく学生が毎日の食事に悩み、有意に健康を害しているという気になる記事を書いていました。私のように早い時期から自炊し、日々の家事が苦にならない人はレアで、多くの学生にとって毎日の自炊と部活と勉学の両立は容易なことではないでしょう。寮に食堂はあるべきだと私も思います。

義務中に自治医大出身で岩手県と同級生と私は結婚し、2人の男の子に恵まれています。子育てと仕事の両立は、大変さより人間としてのすばらしい経験が圧倒的に勝ると断言します。主人は最大の理解者だし、仕事で疲労困憊していても、子供達の世話をするとなぜか逆に元気になれるし、76歳の母は川井村から野菜を背負って

後輩医師・学生へ一言メッセージ

『人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう。』

(周囲への甘え過ぎには気をつけましょう。
岩手の偉人: 後藤新平医師)

遠路バスでしばしば来てくれるし、皆の協力に感謝する毎日です。

同県同士の結婚は他県に比べると苦労が少ないとは思いますが、同級生である以上、義務中の勤務地は別々で、岩手は広いためほぼ別居し毎年のように2か所の引越をしました。長男妊娠時は診療所勤務で、そのまま出産するつもりでしたが、妊娠6か月時、小規模県立病院に転勤命令がでました。そこは常勤医が3人で、必然的に産休直前まで3日ごとに当直でした。次男妊娠時は超多忙な中核県立病院の1人小児科長で、外来、入院、緊急帝王切開立会、仮死児が生まれると自分が妊婦であることを忘れ、全力で走って蘇生に向かい、土日・夜間は救急呼び出しに対応し、やりきった自分をほめたい気持ちです。ひどいつわりで激やせした私と一緒に、おなかの中から激務を乗り切り、元気に生まれてくれた子供達は私の誇りです。義務年限は正直大変でしたが無事に果たせたことは自分自身の誇りです。

高校時代からの奨学金もすべて返済し、岩手医大小児科常勤11年目になります。義務終了後に大学を希望したのは、確実に複数の医師がいる事、勤務地が固定すれば引越がなく、地元で根差して子育てができる事、経験・勉強不足のまま地域に残ることが不安だった事などが理由です。現在当直は月に4回、担当の小児神経オンコールは月に半分以上です。複数医師がいてもなぜか呼び出される日々に変わりはありませんが、未来ある岩手の子どもたちのために、私にできることをするのみです。

医師にも母にも私がなれたのは、自治医大の存在と、多くの人々との幸運な出会いのおかげです。恩を返していく年齢になったと最近感じます。自分の経験や知識はわずかですが、惜しみなく後輩に伝えたいと思います。



「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。連絡先: 自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係
E-mail: chisui@jichi.ac.jp

絵本の森

夜の長い季節になりました。星を見上げながら、子供と一緒に過ごすのにとってもいい季節ですね、夜空は想像力を膨らませてくれます。そんなシーンにぴったりの絵本を選んでみました。絵本を開き、想像の世界の扉の向こうに、親子で出かけてみませんか。



ながれ星のよる ～ランスロットとリンゴの木～
作: たむらしげる
出版社: 復刊ドットコム
発行日: 2001年9月
読んであげるなら 3歳～
定価: 1,300円(本体価格)

打ち捨てられたテレビから流れたニュースに誘われ、ロボットのランスロットはリンゴの木と一緒に流れ星を見に行きます。とても不思議で幻想的な、しかしどこかおかしみを感じる世界のお話です。流れ星が降った後の出来事は、きっと誰も予想できないでしょう。



ぼくはうちゅうじん
作: 中川ひろたか
絵: はたこうしろう
出版社: アリス館
発行日: 2014年10月
読んであげるなら 3歳～
定価: 1400円(本体価格)

キャンプ場で星空を見上げながら、親子三人が語り合います。星座から月、太陽に惑星、そしてはるか遠くの宇宙へと話は広がります。どこかにいるかもしれない宇宙人からしたら、「ぼくはうちゅうじん」。ゆっくり夜空を見上げたくなる作品です。



ストレスケア

「湖畔で過ごす」

2階の広縁から望む風景は息をのむほどで、日常を忘させてくれる美しさです。すでに公開されているイタリア大使館別荘記念公園へも足を運び、優雅な時間を堪能されることをお勧めします。

【英国大使館別荘記念公園】

平成 28 年開園期間

7月1日(金)～11月30日(水) ※11月の月曜日は休園
開園時間

9時～17時まで(11月11日～30日は9時から16時まで)
観覧料

大人 200円 小人 100円(4才以上から中学生まで)
* イタリア大使館別荘記念公園との共通観覧券
大人 300円 小人 150円

日光自然博物館HP

<http://www.nikko-nsm.co.jp/building>

各国の大使が愛した風景を味わう

忙しい日々の中、自然の中で過ごすことは心にとって何よりの栄養です。湖畔で静かな時間を過ごす。そんな贅沢な時間を味わうに最高の施設がこの夏公開されました。

栃木県日光市にある中禅寺湖畔の英国大使館別荘記念公園です。明治中頃から昭和初期にかけて、中禅寺湖畔には各国の大使館をはじめ多くの外国人別荘が建てられ、国際避暑地としてにぎわいました。そうした別荘の一つである英国大使館別荘が今回復元され公開となりました。

